

研修だより

糸島市立一貴山小学校
平成26年11月28日（金）
学力アップ部

3年生と中村先生の成長ぶりに感動！

【単元名】「紹介メモを使って、友達に好きな本を紹介しよう」

【単元目標】

- 物語の組み立てに興味をもち、進んで学習に取り組もうとしている。
- 自分の読みと友達の読みを比べ、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気づくことができる。（関心・意欲・態度）
- 物語の内容に応じて必要な情報をそろえている。
- 場面の移り変わりをとらえて物語の組み立てを考え、書いている。（書く）
- 民話や物語がどのように組み立てられているかを考えたり、場面や心情の移り変わりを地の文や登場人物の行動、会話などに注意したりして読んでいる。（読む）
- 既習漢字を使って、文を書くことができる。
- 自分の表したい内容を文章中で使われている言葉を使って表現することができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

【本時目標】

- 自分の面白いと思った文の理由を探すことに興味をもち、進んで学習に取り組むことができる。（関・意・態）
- 今までの4つの場面にあった、言葉のリズムや豊かな語感、民話に記される知恵を読みとることができる。（読む）

【本時展開】

- 1 学習課題をつかむ。
○紹介メモや既習図から「三年とうげ」の場面分けを想起すること。

「三年とうげ」の好きなところを出し合い、面白さの秘密を読み取ろう。

- 2 「三年とうげ」から好きな文を読み取り、交流する。
(1) 「三年とうげ」で心に残ったところ、楽しかったところが分かる文をカードから選ぶ。
○紹介する理由を説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりすること。

- (2) 自分の好きなところとその理由となる文をペア交流し、話し合ったことを全体で交流する。
○自分と友達と交流する中で、一人一人の感じ方の違いに気づくこと。

- (3) 理由となった文や言葉が書かれたカードを仲間分けし、交流する。（ペア交流から全体交流）
○繰り返しの表現やトルトリの知恵の面白さから民話の面白さに気づかせること。

- 3 紹介メモに好きな文を入れ、紹介文の原稿として読み合い本時の振り返りを行う。

- (1) 好きな文を自分の紹介文に付け加え、交流する。
○紹介したい分を、紹介メモに付け加え、交流すること。

- (2) 本時のまとめを行う。

三年とうげは、繰り返しの言葉やトルトリの考えが面白い。



【既習図からめあてを導く様子】



【ペア交流の様子】



【カードを分類している様子】

（中村先生の自評）

- 5～6割の達成。（関心・意欲・態度）
- 知恵の読み取りが教師主導になった。分類のやり方について、説明不足だった。（読む）
- 発問・学習プリントにもっと工夫が必要だった。

【授業を見られた先生方より】

【中村先生のよさ】

- 3年生の聞く力・発言力（発言の仕方）が伸びています。日頃から思考力・表現力を培っているからこそです。
- 同じ単元に、昨年度の反省を生かしてチャレンジする気持ちが素晴らしいです。
- 学習課題をもたせる際、読み聞かせのG Tを活用したことで、世界の民話の紹介文を書くという見通しをもたせることができた。

【改善案と今後の課題】

- 分類する際には、2つに限定しない方が良いのでは。ななこさんの「3つに分けられた」という発言を生かして、なぜそのように分類したのかを問うと思考力を鍛えることができそう。
- 紹介文のモデルを知らない子どもたちでは、学習の見通しがもちにくいので、モデルを見せてゴールを示した方が良い。
- 民話の面白さや良さについて「面白い」と「好き」を分けて考えるべきでは。曖昧にとらえていたことで、子どもたちが悩んでしまった。
- トルトリの知恵に気づかせるためには、既習図や紙芝居を有効に活用するとよかった。
- 4つの場面で書かれた大まかなあらすじと、本時の内容を関連づけて授業を構想すると良い。
- 前半に「繰り返し」に子どもが注目していたので、後半は「それ以外に見つけていこう」という展開もあった。

【馬渡指導主事から】

- ゴールとなる言語活動とつないで導入をしたこと。
- カード操作は思考を促す手立てとなる。
- △本時のめあてが曖昧だった。
- △紙芝居を出したとき、子どもたちの意欲がぐっと高まったので、少し紹介してもよかった。
- △「三年とうげの面白さとは、リズムのよさ、繰り返し、知恵である」ではなく、「三年とうげのリズムって面白いね。いい考えをもっているね」という子どもの気づきが大切である。
- △ねらいを焦点化することが大切。
- ◎ユニバーサルデザインの視点「シンプル・クリア・シェア・ビジュアル」に立って、学習課題や発問、本時のねらいなどを焦点化することが大切。



【全体交流の様子】



【紙芝居に集中する子どもたち】



【ていねいな机間支援の様子】

思考をうながすための交流活動の工夫

- 子どもの思考を綿密に予測し、発問や学習プリントに工夫を凝らすこと。
- 教師の細やかな授業計画（焦点化）が大切。

松本教頭先生より

◎ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりとは、どの学級でもどの授業でも教育活動の「原理原則」です。

◎発問や獲得させたい学習内容の焦点化・具体化を図ることが大切です。

